

今年の雨季に備え 緊急土石流対策

曾場ヶ城山の溪流 強靱ワイヤーネット設置

林野庁
災害復旧工事

住民の方の安全を確保

3月4日（水）、林野庁山地災害復旧対策室は、八本松西地区の曾場ヶ城山の溪流に進められている「強靱ワイヤーネット工事」について、請負会社の株式会社SEIWAと東亜グランド工業株式会社の協力を得て、現地で工事の経過を八本松自治協防災関係者に説明した。



治山ダムの堰堤が完成するまでの暫定的な土石流の流下を防ぐ安全装置

林野庁の畑田氏は「本年度は、土石流を起した曾場ヶ城山中央部の溪流（1面中央図④）の最下流部に治山ダムの設置工事を計画していた。しかし、入札不調で工事が遅れ、再度土石流が発生すれば住民の方々に被害を及ぼしかねない状況となった。そのため、強靱ワイヤーネット施設工事を緊急に追加し、土石流等の流下を防止し住民の方の安全を確保することとした」と経過を説明。

この施設の置場所は溪流の開口部（西条バイパスの側道）に設けられた溪流を受ける溜枦）から山側に約120m遡った位置。構造は、15m幅の間に高さ約6mの4本の鋼鉄製支柱が立てられ、これに鋼鉄製のワイヤーで作られた強靱なネットが張られている。工事の進捗状況について、（株）SEIWAの梶田氏は「この工事は12月から仮設道の施行を開始し、その後、資材搬入、ワイヤーネット設置と順調に進み、3月13日には完了の予定」と工事の経過を説明。



支柱が固定された基礎部分(手前に3m、奥に5.5mのアンカーで固定)



上部の横の張られたワイヤー(ネットが吊るされている)衝撃を吸収する多数のプレーキリングの中を通されている



高さ5.5mの鋼鉄製の支柱 これらの支柱は山側にロープとアンカーで支えられている



ネットは硬鋼線製のリングで作られている リングの変形で衝撃を緩和する

くこの場所に設置されている」と説明した。また、今後の計画について畑田氏は「同様な工事を④溪流（1面中央図④）

でも行う計画で、現在、仮設道を付けている。3月下旬位から設置工事を行い今年の梅雨までには完成の予定」と述べ、現場での治山事業工事の説明を終了した。